

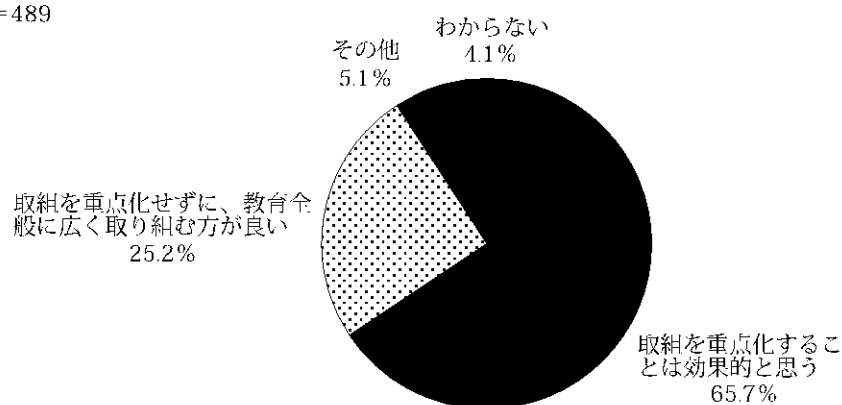
II あいちの教育の推進

1 「あいちの教育に関するアクションプラン」について

問9 愛知県教育委員会では、「あいちの教育に関するアクションプラン（平成19年4月）」に基づき、毎年度、家庭や地域、学校で取り組んで欲しいテーマを定め、重点的に取り組んでいます。（19年度は「ノーテレビデー・ノーゲームデー」、20年度は「モラルの向上」、21年度は「情報モラルの向上」）。

教育を取り巻く環境変化を踏まえ、県教育委員会が毎年度テーマを絞って重点的な取り組みを進めていることについて、どのように思いますか。（回答は1つ）

N=489

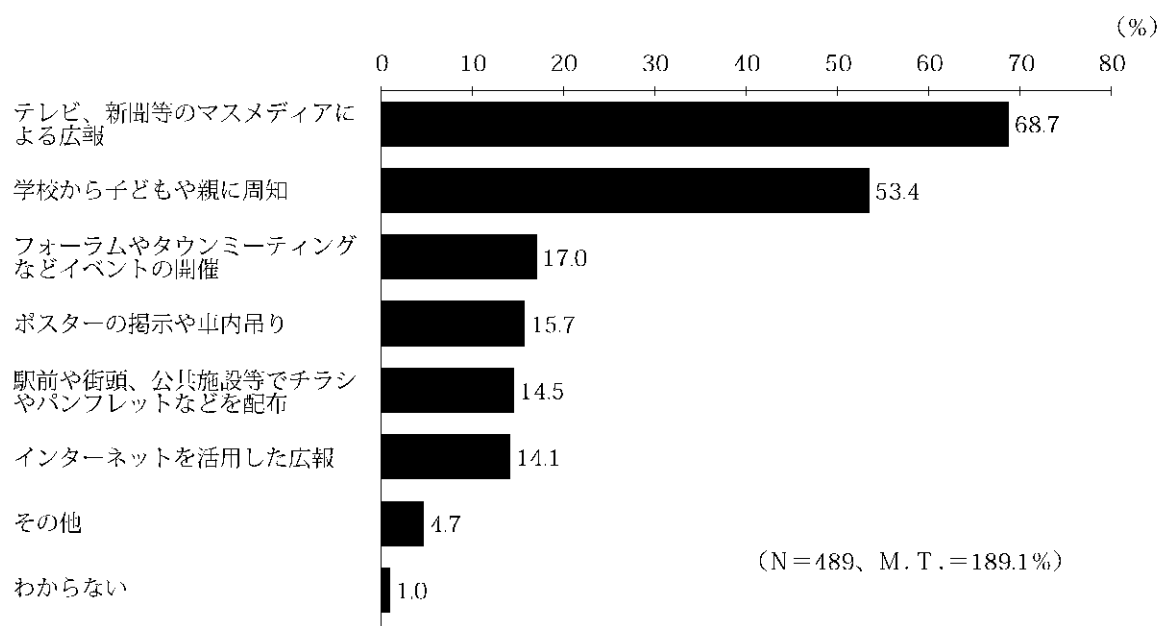


〔※ テーマを設定していることは知っている 14.6%
テーマを設定していることは知らなかった 76.3%〕

県教育委員会が毎年度テーマを絞って重点的な取り組みを進めていることについて、どう思うかを尋ねたところ、「取組を重点化することは効果的と思う」が65.7%、「取組を重点化せずに、教育全般に広く取り組む方が良い」が25.2%となっている。

なお、県教育委員会が毎年度テーマを設定していることについては、「知っている」が14.6%、「知らなかった」が76.3%となっている。

問10 「あいちの教育に関するアクションプラン」に基づく取り組みが多くの人に伝わるには、どのようにしたらよいと思いますか。(回答は2つ以内)



「あいちの教育に関するアクションプラン」に基づく取り組みが多くの人に伝わるには、どのようにしたらよいと思うかを尋ねたところ、「テレビ、新聞等のマスメディアによる広報」が68.7%、「学校から子どもや親に周知」が53.4%などとなっている。

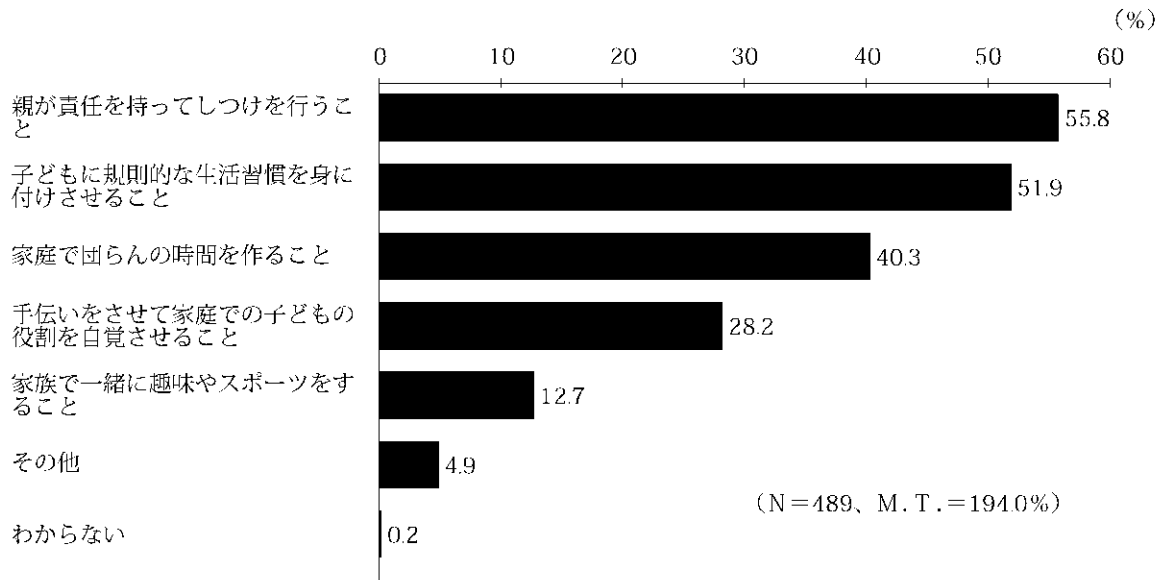
「あいちの教育に関するアクションプラン」の中でテーマを定め重点的に取り組んでいることに対して、認知度が低いことが問9でわかりました。問10の回答を参考にして、愛知県教育委員会の取組を、もっとメディアによる広報を工夫して、県民のみなさんに知っていただく努力をしていきたいと思えます。

なお、問10で半数以上の方が「学校から子どもや親に周知する」を選択されましたが、今年度、愛知県教育委員会では、重点的なテーマである「情報モラルの向上」について啓発する広報紙やパンフレットを、教員が直接保護者へ手渡すよう考えております。(教育委員会総務課教育企画室)

2 家庭について

問11 教育の基本は家庭教育ですが、近年、家庭の教育力が低下していると言われています。子どもたちを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。

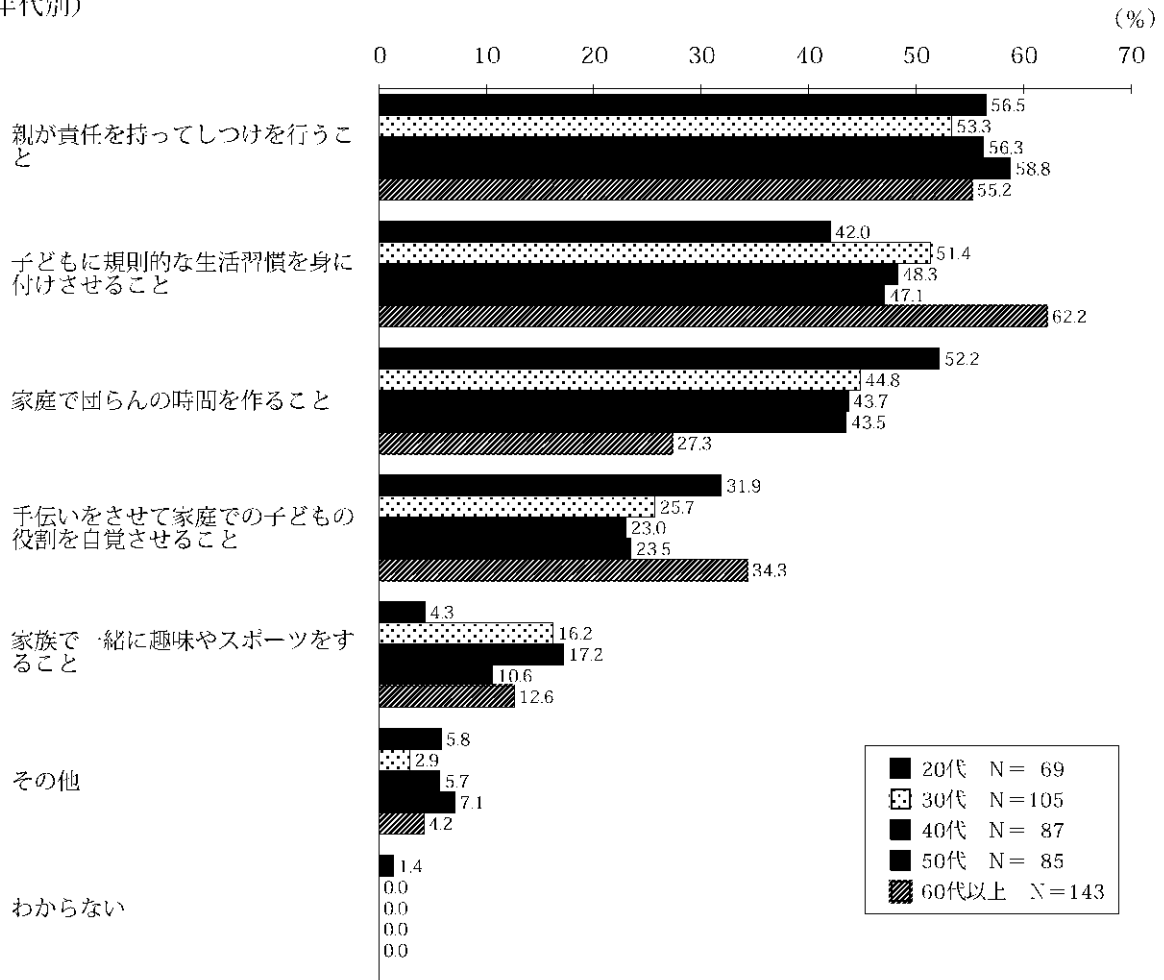
(回答は2つ以内)



子どもたちを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要と思うかを尋ねたところ、「親が責任を持ってしつけを行うこと」が55.8%、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること」が51.9%、「家庭で団らんの時間を作ること」が40.3%などとなっている。

年代別にみると、20代から50代までは「親が責任を持ってしつけを行うこと」と答えた人の割合が最も高くなっているが、60代以上では「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること」と答えた人の割合が62.2%と最も高くなっている。

(年代別)



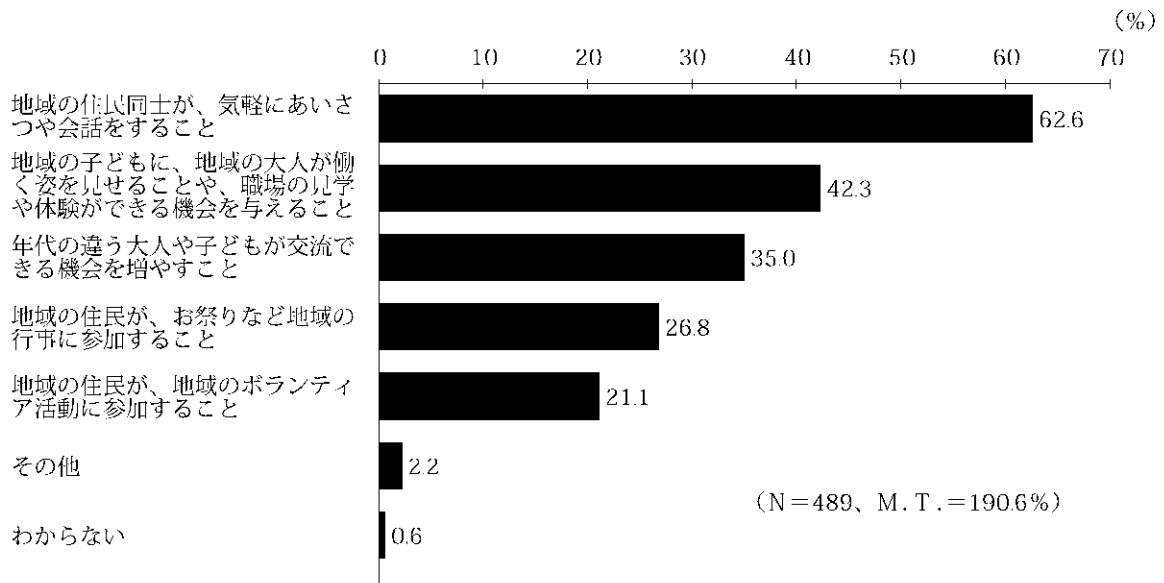
「しつけを行うこと」や「生活習慣を身に付けさせること」について、半数以上の方が家庭の役割として重要であると回答していることから、ルールやマナーを身に付けさせることは家庭が中心であると考えている方が多いことがうかがわれます。

特に、しつけについては、どの年代でも半数以上の方が家庭の役割として重要であると回答しており、しつけは親の責任であると考えている方が特に多いことがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

3 地域について

問12 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせませんが、地域では、特にどのような取組が重要だと思いますか。(回答は2つ以内)

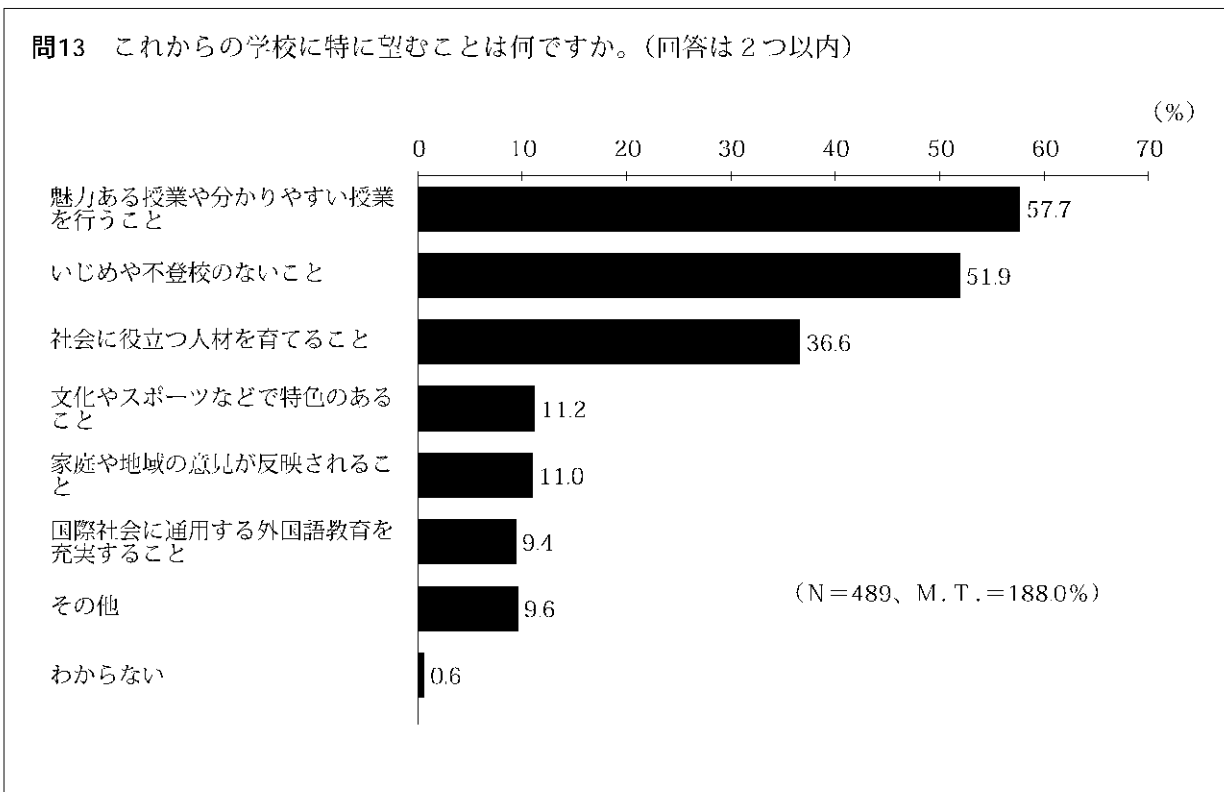


子どもの教育に地域社会のどのような取組が重要と思うかを尋ねたところ、「地域の住民同士が、気軽にあいさつや会話をする事」が62.6%、「地域の子どもに、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」が42.3%、「年代の違う大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」が35.0%などとなっている。

多くの方が「気軽にあいさつや会話をする事」が地域での取組として重要であると回答していることから、地域社会における人間関係が希薄化していることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

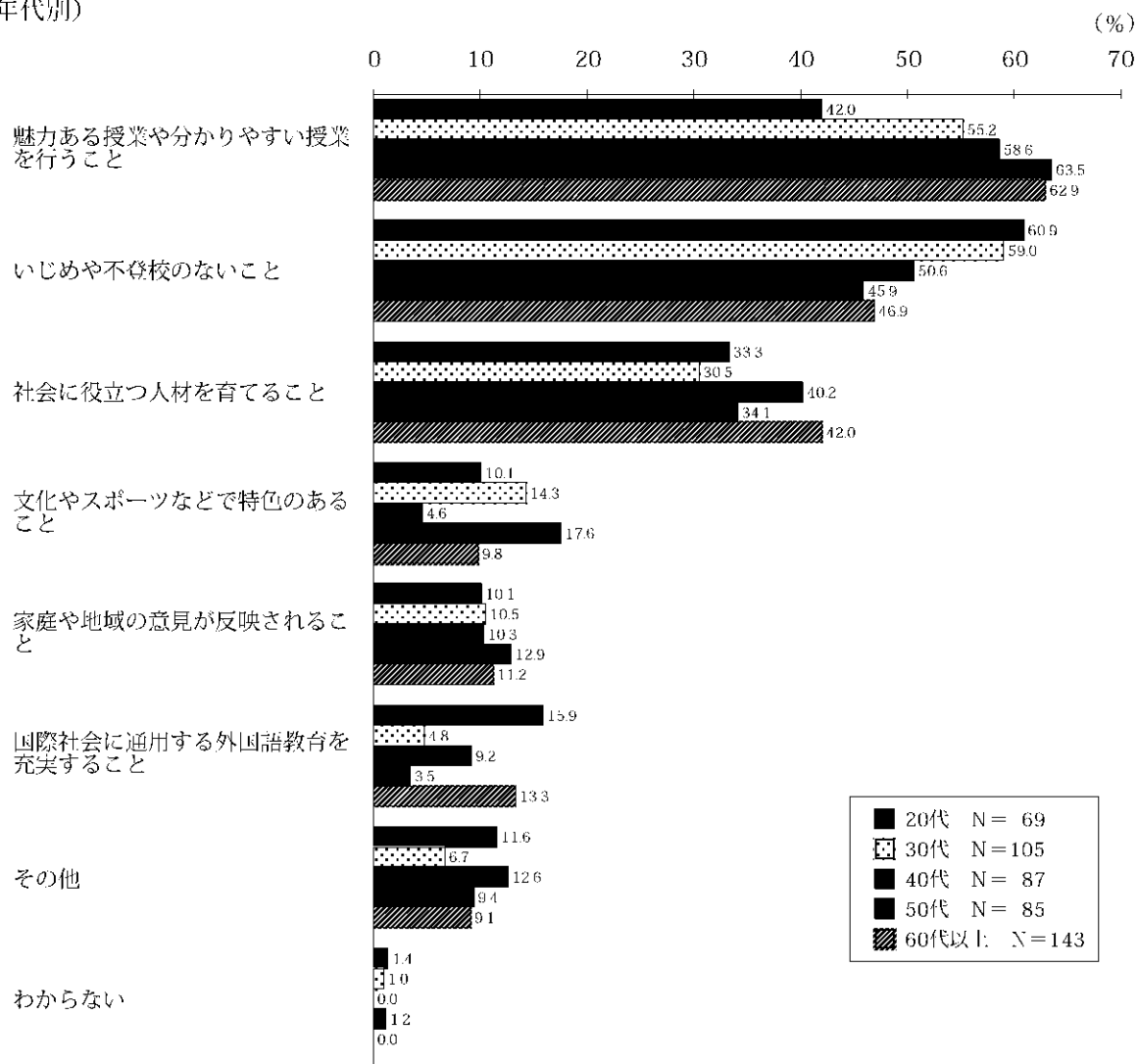
4 学校について



これからの学校に特に望むことについて尋ねたところ、「魅力ある授業や分かりやすい授業を行うこと」が57.7%、「いじめや不登校のないこと」が51.9%、「社会に役立つ人材を育てること」が36.6%などとなっている。

年代別にみると、20代、30代では「いじめや不登校のないこと」と答えた人の割合が最も高くなっているが、40代、50代、60代以上では「魅力ある授業や分かりやすい授業を行うこと」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)



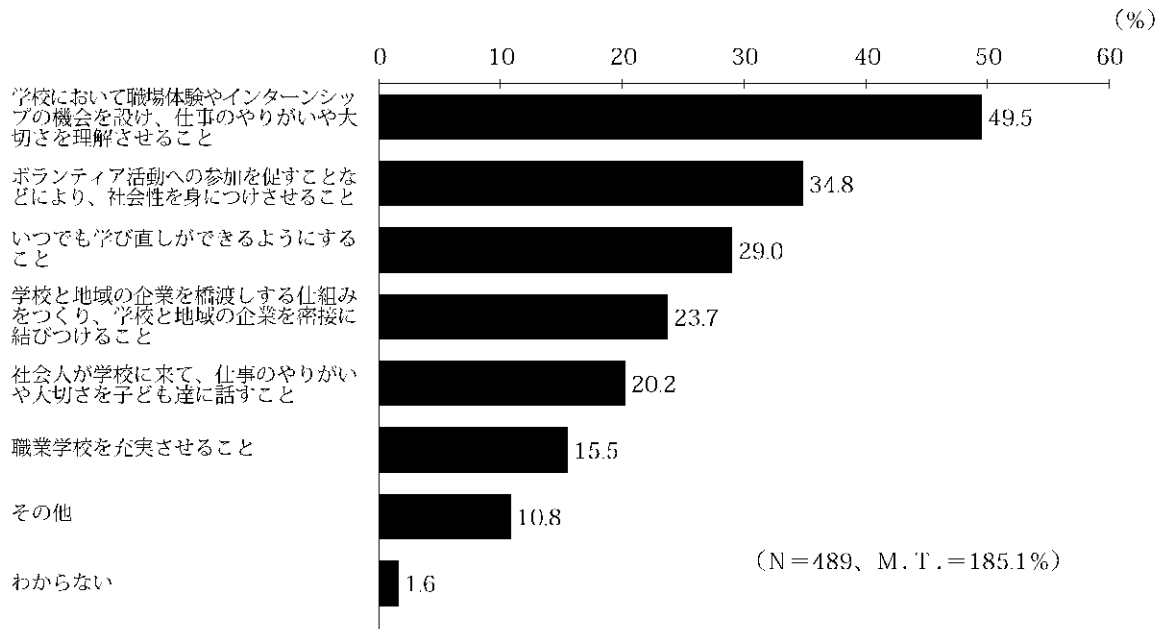
魅力ある授業やわかりやすい授業を行うこと、社会に役立つ人材を育てることを、多くの方が学校に望んでいることから、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、自立した生徒の育成が求められていることがうかがわれます。

また、いじめや不登校については特に若い年代で心配されており、いじめや不登校への対策が望まれていることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

5 不安定な状態にある若者について

問14 全国で、ニートは約60万人、フリーターは約180万人いると言われ、社会生活が不安定な状態にある若者の増加が問題となっています。このような現象をなくしていくためにはどのような教育が必要と思いますか。(回答は2つ以内)



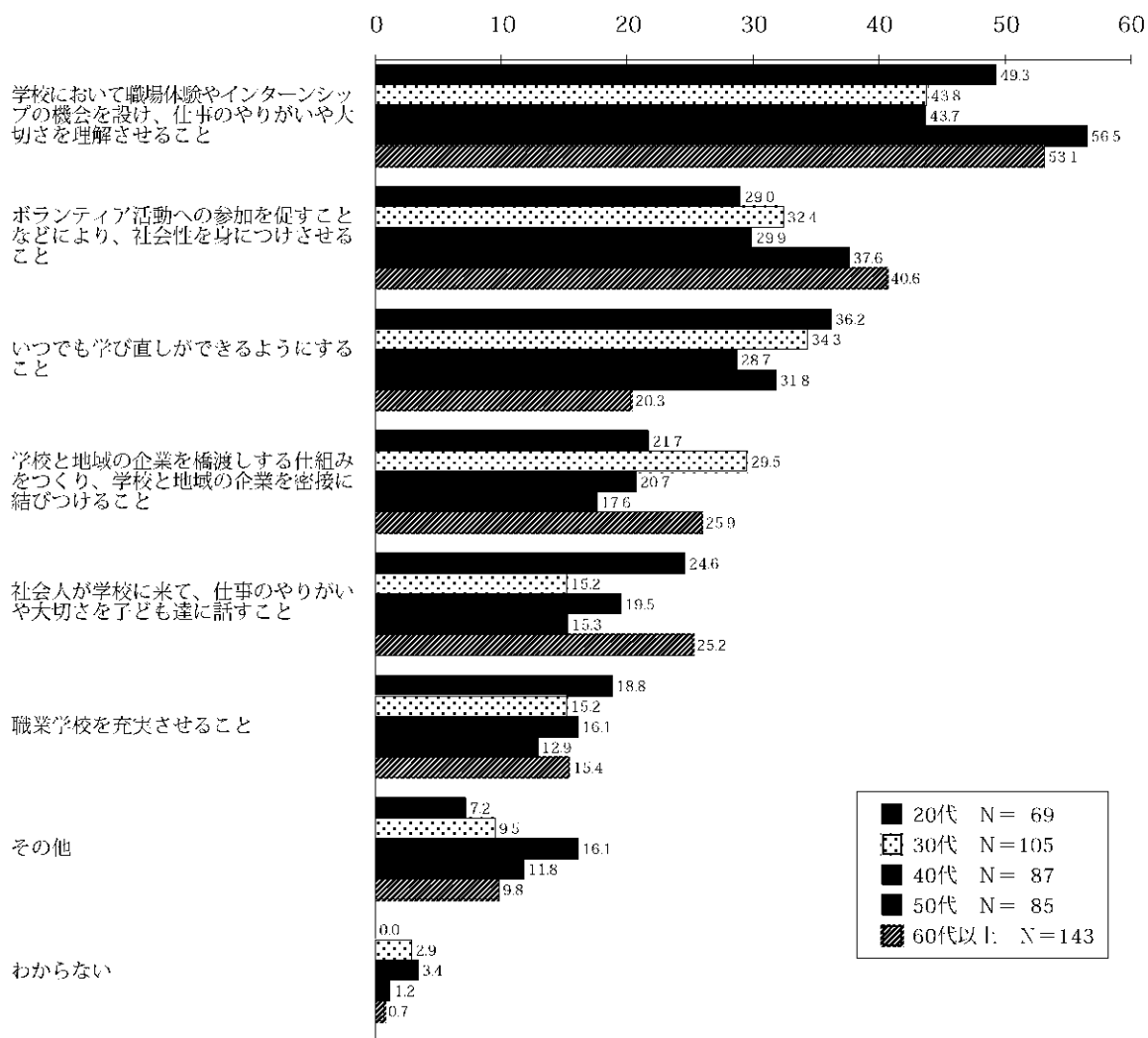
社会生活が不安定な状態にある若者をなくしていくために、どのような教育が必要と思うかについて尋ねたところ、「学校において職場体験やインターンシップの機会を設け、仕事のやりがいや大切さを理解させること」が49.5%、「ボランティア活動への参加を促すことなどにより、社会性を身につけさせること」が34.8%、「いつでも学び直しができるようにすること」が29.0%などとなっている。

年代別にみると、どの年代も「学校において職場体験やインターンシップの機会を設け、仕事のやりがいや大切さを理解させること」と答えた人の割合が最も高くなっているが、次いで答えた人の割合が高いのは、20代、30代で「いつでも学び直しができるようにすること」、40代、50代、60代以上で「ボランティア活動への参加を促すことなどにより、社会性を身につけさせること」となっている。

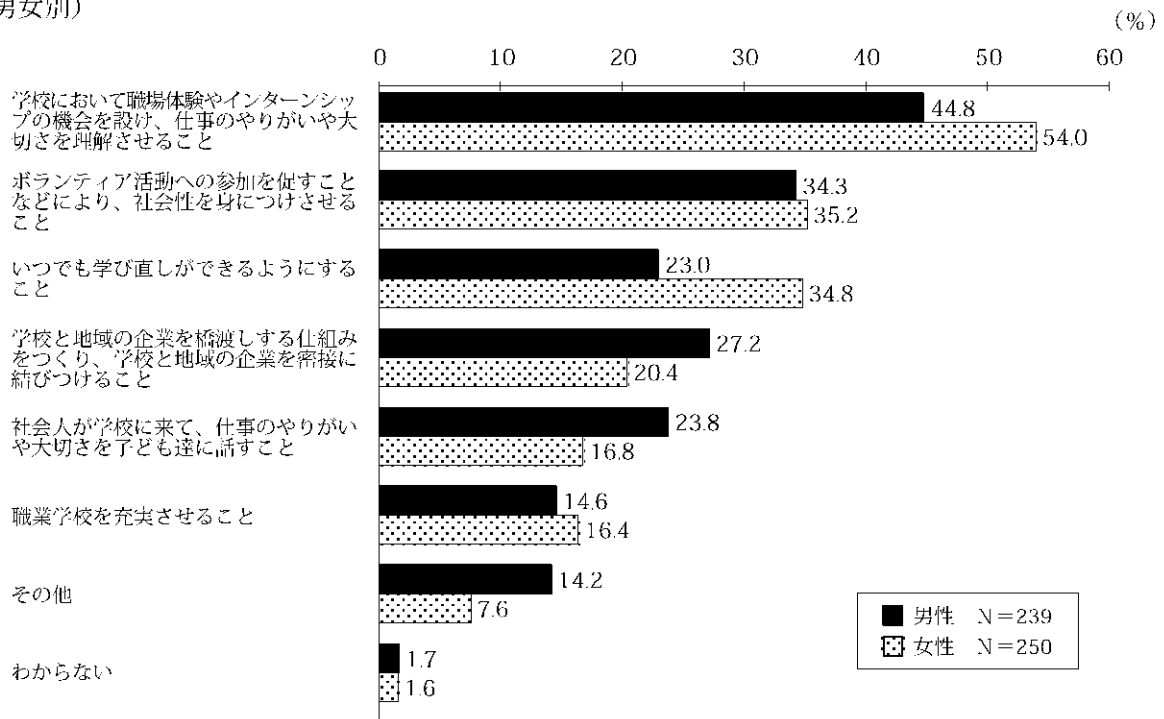
男女別にみると、男性では「社会人が学校に来て、仕事のやりがいや大切さを子ども達に話すこと」と答えた人の割合が相対的に高く、女性では「いつでも学び直しができるようにすること」と答えた人の割合が相対的に高くなっている。

(年代別)

(%)



(男女別)



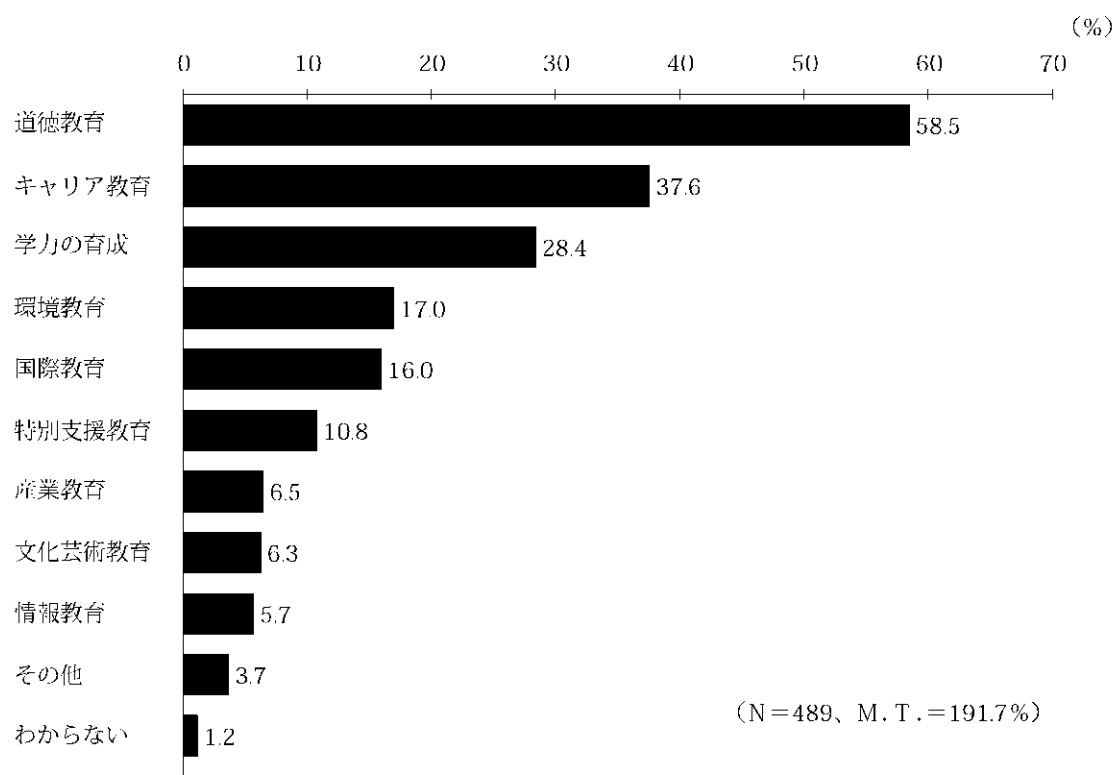
半数近くの方が、職場体験やインターンシップ、ボランティアを行うことが必要であると回答していることから、将来、どのような職業に就いて自己実現を果たしていくかなど、自己有用感の醸成についての対策が必要であると考えていることがうかがわれます。

男女別をみると、「仕事のやりがいや大切さを理解させる」ことや「いつでも学び直しができるようにすること」について、女性が男性と比較して10%程度多く「必要である」と回答していることから、女性は男性に比べて、社会参加に直接結びつく教育を強く望んでいることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

6 教育全般

問15 子ども達の将来のために、愛知県は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。(回答は2つ以内)



(キャリア教育)

子どもたちに将来の生き方や社会人、職業人としての在り方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観や、社会に貢献していく態度と時代の変化に対応できる基礎的・基本的な資質と能力を育成する教育

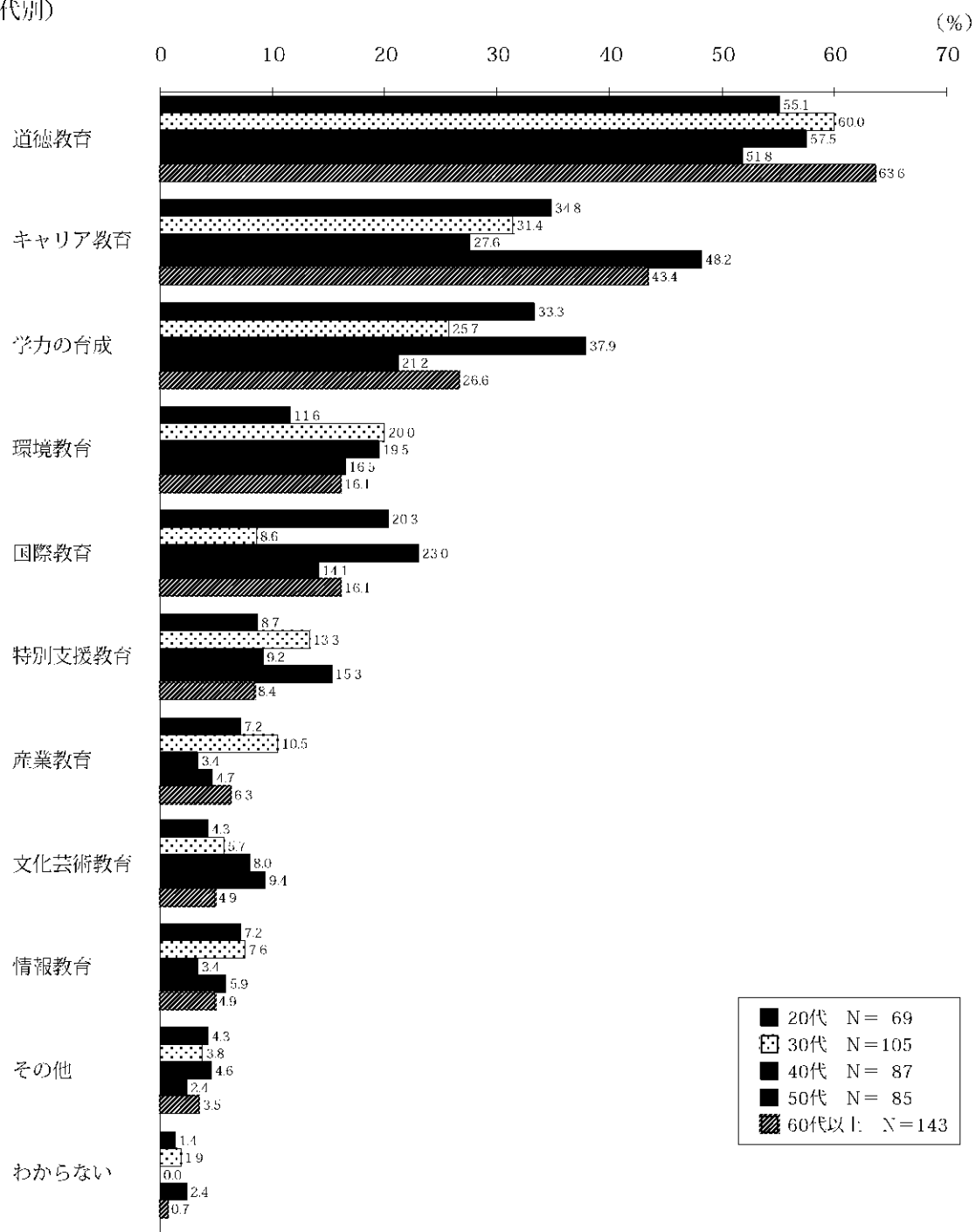
(特別支援教育)

障害のある子どもの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加するために必要な能力をつちかうため、一人一人の障害の状態などに応じ適切に行う教育

子ども達の将来のために、愛知県は、どのような教育分野に力を入れていくべきかを尋ねたところ、「道徳教育」が58.5%、「キャリア教育」が37.6%、「学力の育成」が28.4%、「環境教育」が17.0%、「国際教育」が16.0%、「特別支援教育」が10.8%などとなっている。

年代別にみると、どの年代も「道徳教育」と答えた人の割合が最も高くなっているが、次いで答えた人の割合が高いのは、40代では「学力の育成」となっているが、それ以外の年代では「キャリア教育」となっている。

(年代別)



問13では学校に特に望むこととして「魅力ある授業・わかりやすい授業」があげられたが、教育分野としては、「道徳教育」と「キャリア教育」が学力の育成を上回った。このことから、子どもに身に付けてほしい能力としては、規範意識や社会性、勤労意欲など、人格形成を重視していることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

7 自由意見

問16 あいちの教育についてご意見があれば、自由にご記入ください。

あいちの教育について、自由に意見を記入していただいたところ、215件の意見が寄せられた。それらが大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 家庭教育	26
(2) 地域の教育	6
(3) 道徳・マナー・しつけ	32
(4) 生徒指導、いじめ、不登校	9
(5) キャリア教育	26
(6) 魅力ある学校	13
(7) 学力	25
(8) 体づくり	5
(9) 特別支援教育	6
(10) その他学校教育	5
(11) 教員の資質・多忙化	19
(12) 教育費	9
(13) 教育委員会	4
(14) アクションプラン	7
(15) 教育全般	9
(16) その他	14
合 計	215

(1) 家庭教育

- 自分の子どもは自分が責任をもって育成・教育するという親の自覚が欠けている。その自覚を忘れ学校教育に口を出すモンスターペアレントなんてのもっての他である。家庭教育・学校教育・社会教育の3者が相まってはじめて教育の推進が図られるが、原点は家庭教育にある。家庭教育の重要性についての理解を高める周知啓蒙活動の推進を望む。
- 少子化の現在、過保護になってしまいがちだが、大人の知恵と判断で、子どもの可能性を伸ばすために「見守る」ということも大切なのではないか。家庭で親としての自覚を持って子育てをしなければ、学校等で受ける教育に負担をかけることになる。

- 世の中のすべての事は家庭内の教育やしつけから始まっていると思う。家庭で覚えるべき事を学校や世の中に責任を持たせるような人が多くなっている。これからの若い親になるべき人を教育していった方が良いと思うが。
- 外国に暮らす孫を見ると、父親が積極的に育児に携わっている。のびのびと、父親を信頼し、一緒に遊び考え合っている。話しを幼児の頃からきちっとしている。
- 少人数の家族も多く、親も教育に関しては手探りの方も多と思う。親の教育講座が必要だと思う。

(2) 地域の教育

- 子どもの教育は、親が主となって、地域の方、学校など周りのみんなで行うものと考えている。子どもが周りの大人を見て、自然に学んで行ける社会であって欲しい。
- 今の小学生は外見上十分に大人だが、中身は本当に幼い。しかし、大人は外見だけ見て悪いことをする。学校では性教育、麻薬、いじめやひきこもり、精神障害等多くの課題があるが、教師だけではなく関わりある多くの大人たちが真剣に取り組んでいかなければならないと思う。

(3) 道徳・マナー・しつけ

- マナーや作法がなっていないというより、マナーや作法を知らないのではと感じる。一言でいうと大人をナメているように思う。尊敬できない人間に従いたくないのは誰もが同じ。まずは手本となる大人の身の置き方に焦点をあてるべきだと思う。
- 子どもたちが生き生きと将来に夢を持ち、自分に責任を持ち、自分の考えを言葉で人に伝え、人に迷惑をかけない大人になって欲しい。歴史は直近の過去から教えていないし、遠い昔を今と関係ない様に教える。自分の親が自分の世代にどんな時代背景を生きたかを学ぶことにより、親を知り、尊敬し、金以外の価値も知るのはないか。必死に働く親に食べさせてもらいながら社会のことを関係ないと言ってしまふ大人をこれ以上作らないで欲しい。
- 戦争のことや世界の現状を伝え、自分たちの今が当たり前でなく幸せであることを感じて欲しい。命や食べ物など大切に思える教育を伝えて欲しい。
- 昔は貧乏でも心は今ほど貧乏ではなかった。親は子の、子は親の命の大切さが分からなくなっている。親と子、学校と地域、それぞれが互いに良くしようとする心が育てられていない。義務教育の9年間は何を教えられているのか。学力も落ちている。抜本的な子ども教育の改革を望みたい。
- 愛知県の交通マナーは日本一悪いと聞くが、子どもからのしつけや、モラル教育が不十分だったことを証明している。
- 私立学校の方が様々な取組を独自に行っており、私立学校か公立学校に行くかによって、取り組

まれる教育の内容に格差が出ていると思う。公立学校に対して、もう少し教育方針を具体化して、県内統一された教育、教養だけでなくモラルなどの指導もして欲しい。

- 携帯電話の学校裏サイトによるいじめ、出会い系サイトによる児童買春などの問題があり、心身ともに大きく成長する小・中学校の時期には、携帯電話は必要ないように思う。そこで、もっと親に対して子どもに携帯電話を持たせないような啓発活動を行うと同時に、学校には持ってこさせないという強い態度を示しても良い様に思う。

(4) 生徒指導、いじめ、不登校

- 不登校の子どもが学校に見捨てられているようでとても見てもらえない。先生が訪問するのは次の学年に進級する前の春休みに義務的に行われている。校長始め学校側全ての問題として受け止めて欲しい。一つづつまずきが確実に人生を台無しにしている。
- いじめによる自殺などが多いので、精神面でのサポートを充実してあげて欲しいと思う。
- 学校周辺をはじめ、校内の清掃、運動場の草取りなど生徒にやらせてほしい。自らが学ぶ場所だ。進んでやらせる指導をして欲しい。
- 愛知県の子どもたちは、他県の子どもより、教育、親の収入、地理的条件など色々な面で恵まれていると思うので、たくましい子を育てるため少しは厳しさを与えるべきだと思う。

(5) キャリア教育

- 子どもがそれぞれの学習力や得意な分野、個性を伸ばせる教育が望ましい。ゆとりだけでも競争だけでなく、将来の希望や夢、どの様な仕事にもやりがいがある事、一生続けて行けることを大切に伝える（理解できる）教育が必要。
- 子どもたちに、コミュニケーション能力を付けさせて欲しい。そのためには、今の自分の気持ちに敏感になること、自分の感情を大切にすること。そうすれば、自分の好きなことや、したいことがよく分かり、職業についての意識も高まり、みんなが生き生きできる社会になると思う。
- 子どもたちの自立への道筋づくりを望む。家庭でできる細かなしつけは家庭に任せ、学校では社会性を身に付けられるような働きかけをして欲しい。地域の中の自分について考えられるような体験学習が増えると良いと思う。
- ニート・フリーターの増加は、学校の生ぬるさと社会の厳しさとのギャップの大きさによるものと思われる。例えば、部活動に参加せず、帰宅後ゲームやパソコンで時間をつぶすような子どもは卒業後も楽な方へ流れていってしまうように思う。学校の集団生活の中や教科授業以外の部分で、子どもにやりがいや社会に貢献することの大切さを学ぶ場がもっとたくさんあるとよいと思う。
- 小・中・高・大などの別を問わず、教育の現場を「象牙の塔」にしないことだ。地域住民や地場

産業との交流を密にして民間講師を招聘したり、逆に生徒たちが職業体験やボランティアなどを自由にしたりできるような、フレキシブルなカリキュラムを作って欲しい。

- 卒業と同時に第一線で働ける様な、4、5年通う専門学校の高校を増やせば、親も教育費が減り、年金も20歳から払うことができるのではないかな。
- 若者へ勤労意欲を持たせる教育は大事だが現状では受け皿が無いのが実態だ。教育と同時に若者が働く場所を作る取り組みも同時に考えないと、努力をしても報われぬ夢の持てない若者が増えるばかりだ。

(6) 魅力ある学校

- 県立大学の活性化として、地域の人参加型の教育、学び場として盛り上がると良いと思う。
- 製造業や農業が強い愛知県だから、製造業と農業をもっと教育に全面的に出しても良いと思う。
- 公民館や公共施設、中規模公園や資料館など、校外での教育は地域への愛にも繋がるので、総合的な学習の時間以外でも、そうした場所での教育を行うことが良いと思う。
- 各学校の特色を活かした教育方針を認め、学力主義を無くして欲しい。特に中学や高校は進学を競い合うが、それよりも、いじめや不登校がない、中退がない、離職率が低いなど、本来の生活に結びついた教育力を評価しアピールして欲しい。
- 学校によって特色がいろいろあるのはわかるが、特色がありすぎると、子どもがうらやましい気持ちになるらしい。設備の違いを出来るだけなくして欲しい。

(7) 学力

- 景気回復があまり感じられない中、家庭の収入の格差が子どもの教育に影響をしている。義務教育では特に基礎・基本が定着するような充実した内容と指導を、また、塾や習い事に行かなくてもその子のやる気次第で補習や様々な体験ができるような機会を設けてもらいたい。
- 自分が学生の頃は、月曜日から土曜日まで学校へ行った。子どもたちに時間を与えて何を習得できるのだろうか？土曜日になると、ゲームセンターに集まる子どもたちを見て将来がどうなるのだろうと不安に思う。昔のような教育をすることがよいのではないかな。
- 学校以外でも勉強しなければ標準学力に達しないようでは困る。予算を抑える為に、非正規教員を多用しているという新聞記事を読んだ。あまり経験もないのに突然クラスを任せては、子どもたちが迷惑するだけ。正規教員を増やして欲しい。
- 漢字や計算など繰り返し行うことによって身に付く学習が、私たちの世代より、今の子どもたちは少ない様に感じる。ゲームをやる時間があったら、漢字や計算練習をもっとすべきだと思う。
- 英語が話せるようにということは、専門学校に任せ、母国語できちんと物を考える人間を育てな

ければならないと思う。日本人なら日本語で考え、日本の文化をもっと理解すべきである。国語教育の充実を望む。

- 全国学力テストの実施には反対だ。専門職の方を招いて行う子どもへの講習等、もっと有意義なことに予算を使って欲しい。
- 「スペシャリスト」の育成をして欲しい。数学が苦手でも日本史が得意な子どもには、数学を補習させるのではなく、もっと日本史を重点的に学習させてあげたい。
- 「総合的な学習の時間」といった幅広い分野の活動時間に力を入れているが、肝心の学力が私たちの子どもの頃と比較すると低下していることが気がかりだ。(特に小中学校)

(8) 体づくり

- 「よく学びよく遊ぶ」が昔からの教育の基本だ。現代の子どもたちはあまり外で遊んでいないし、テレビ等を見ていて動かない。授業後は学校の校庭を開放して、野球やボール投げ、走り幅跳びなど体を動かすことをすすめるべきだ。

(9) 特別支援教育

- 特別支援教育はすごいことだと思う。障害を抱えている人が身近にいない人は尻込みをしそうなので、もっと情報を流したら良いのではないかと思う。
- 特別支援学級を教育する者は養護学校教員免許資格者にした方が良い。障害に対しての知識が無く、保護者との間でトラブルが起きているのが実状であり、単なる教員免許所持者は、勉強して障害の事を知るといふ努力も見受けられないという意見が多数ある。

(10) その他学校教育

- 中学生になったら部活が大変と親がよく言っているが、青少年の育成に大変役立ち、みんなで力を合わせて努力して忍耐強い人間になり、卒業する頃には保護者も部活動をやってきて良かったと感謝するようになる。先生も忙しいので大変だと思うが、これからも続けていただきたい。
- 学校の英語授業の内容では、社会に出てからあまり役に立たない。国際交流も頻繁になると思うので、実践的な授業を行ったり、小学生から英語が必須になっていくと良いと思う。

(11) 教員の資質・多忙化

- 学校教育は、現場の教師の能力によって決まる。生徒を「教え伸ばす」という熱意があるかということが肝要だ。行政は、こうした人材を採用し、任用後も教師に対してこうした精神面の教育を行うことが重要だ。又、モンスターペアレントと呼ばれる保護者にも臆することなく教育信念を貫く教師を望む。行政も責任論に走るのではなく、気骨ある教師のバックアップをして欲しい。
- 教師の中でも道德教育が出来ていない人がいる様なので、大学を卒業して2・3年は企業の中でいろいろなことを体験して欲しい。
- 教師の服装について、尊敬されるべき姿が必要だ。運動着姿やサンダル履きで授業をするようでは指導者として失格である。
- 民主主義が行き過ぎ、教師に対し、勝手なことを言う親が多いと聞く。教師も自信を失っている。教師の現場にあまり親を関与させるべきではない。問題が生じた場合、管理職は適格に判断し、世間におもねるのではなく、毅然とした対処をするべきだ。
- 色々なカリキュラムが増えるのは賛成だが、教師の負担が大きくなり過ぎない様にして欲しい。また、教師が忙しくなると、どうしても指導が薄くなる様に感じるので、サラリーマン化にならない様な対策もして欲しい。
- 先生も子供がいると思うので、家庭教育・学校教育を伸び伸びとやっていただくために、先生の給料を安くして先生の人数を多くして、先生を明るくさせ、生徒をびびりしめて信頼される様になって欲しい。

(12) 教育費

- 不況による親の収入減のため、教育を続けられない高校生が多いと聞くので、奨学金の貸与等、経済的な援助を充実して欲しい。
- 学力テストの結果が発表されたが、教育にはお金がかかる。塾には通わせないと心配な面が多々ある。東大へ入学した人は高収入の方が多いと言われているが、みんなが費用面で通えるわけではない。

(13) 教育委員会

- 教育委員を増員して、官出身者でない一般民間人の意見をよく聞き多用すべきだ。現在の6名の意思決定では片寄りがある。
- 学校現場に地域の人々を参加させて、教育委員会とは別の意味で自主的な活動を推進して、お金・物・人を現場に与える。

- 愛知県の教育委員会は、全国的に見てもとても保守的だと聞く。男性ばかりで物事を決めると保守的になってしまうので、一般家庭の主婦、子育て中の母親などを交えると違うと思う。
- 愛知では教師になりたくないという話を結構聞いたことがあるので、教育委員会を改革して、愛知で教師になりたいと思えるようにしてほしい。

(14) アクションプラン

- 「あいちの教育に関するアクションプラン」が何に取り組もうとされているのかが地域に浸透していない。あらゆる手段を講じて住民に周知徹底を図って欲しい。「情報モラルの向上」は素晴らしいテーマであるが地域にどれほど浸透しているのか疑問である。
- 県の取組はなかなか一般家庭にまで伝わってこない。県と学校が関係を密にし、学校と家庭の関係を強固なものにして取り組む体制を作るべきである。
- 我が家も「ノーテレビ」を実行している。「ノーテレビ・ノーゲーム」の口を促進しているのは大変よいと思う。その分、有効に時間を使えるので1日が充実する。

(15) 教育全般

- 親や子どもたちの声はよく取り上げられるが、教師の現場の声はあまり重要視されていないような気がする。本当の教育を向上させるためには、教師の声を聞き、そして育てていかなければ、事業に取り組んだという形だけの教育で終わってしまうと思う。
- 愛知県も都会化しているが、まだまだ良い意味で田舎の部分があると思うので、そのあたりが教育に生かすことが出来ると良いと考える。
- 少ない子どもたちを日本の宝として、どの子どもたちも大切に社会全体で育てていくという意識が大切であると思う。

(16) その他

- 公立高校は校舎施設が古すぎる。
- 世代を超えた付き合いができるサークルのようなものが愛知県には少ないと感じている。
- 子どもの数が減少しクラス数が少ない学校が増えている中で、今までと同じシステムで授業を行うことは様々な面で効果が出にくく、不経済なことが多いと思われる。
- 良い本をたくさん読んで、みんながそこから何かを得てくれれば自ずと成長してくれると思う。だから読書をするをもっと大々的にPRすると良いと思う。